

## 「おばあちゃんのおにぎり」

よなごしりつ ふくよねひがしょうがっこう ねん  
米子市立福米東小学校 5年

うえすぎ りん  
上杉 凜

「明日は、何おにぎりがいいの。」

水泳の試合の前の日は、必ず、おばあちゃんが聞いてくれます。私は、

「めんたい。」

妹は、

「さけ。」

兄は、

「梅ぼし。」

三人が、それぞれちがった中身を言っても、

「はあい。おいしいのを作ってあげるよ。がんばってね。」

と、おばあちゃんは、やさしく言ってくれます。

試合の日、おばあちゃんは、みんなよりも二時間も早く起きます。選手用だけでなく、応援してくれる家族のおにぎりも作るからです。熱々ご飯がたけると、まず、大きな器に移し、塩味をつけてからラップでにぎります。次にそれぞれの中身を入れて、最後にのりでまいたらできあがりです。朝ご飯用は、中位の大きさですが、試合のと中で食べるのは、小さ目でパクッと食べられるサイズです。一人に、三個から五個作ってくれます。

全国大会の出場がかかった試合の日、私は、とてもきん張っていて、何ものどを通りませんでした。おかあさんが、

「おばあちゃんのおにぎりは、とってもパワーが出るよ。お母さんもそのおかげで、ひょうじゅん記録が切れたよ。」

と、めんたいおにぎりを渡してくれました。私は、お母さんとおばあちゃんのをばで、少しずつゆっくりかんで食べました。すると、

「おにぎりパワーが入ったけん、全国大会に行けるよ。」

と言って、お母さんが肩をたたいてくれました。私は、何だか体が熱くなってきて

「わかった。がんばってくるけん。」

と言いながら、招集所へ行きました。

いよいよ、私のレースになりました。スタート台に立った時、どきどきしていたのに、おばあちゃんの顔がうかんできました。そして、泳いでいる時も、おばあちゃんが、

「凜ちゃん、がんばれえ。」

と応援してくれる声が、少しだけ聞こえました。ラスト五メートル。ノーブレスでタッチしたしゅん間、すぐけい示板を見ました。

「やったあ。切れたあ。」

私は、水面をたたいて、ガッツポーズをしながら家族の方を見ました。すると、みんなも

「凜ちゃん。おめでとう。」

と大きな声で言いながら、はく手をしてくれました。そして、試合が終わって家族の所へ行った時、

「やっぱり。お母さんが言った通り。おばあちゃんのおにぎりパワーは、すごいでしょ。」

と言いながら、お母さんがぎゅうっとだきしめてくれました。おばあちゃん、ありがとう。これからも、おいしいおにぎりを作ってね。